

# 男女とも稲森・五味が二冠

木村佳司

インカレロング 2015 2015年10月4日 長野県富士見町

秋晴れの中、八ヶ岳のインカレロングを制したのは、男女とも前日のスプリント種目の覇者だった。

2015年10月4日(土) 長野県富士見町  
日本学生オリエンテーリング選手権大会  
ロング・ディスタンス競技

## 女子選手権結果

1	五味あずさ	0:55:57	金沢大学 4
2	守屋舞香	0:57:17	椋山女学園 4
3	伊東瑠実子	1:00:06	東京大学 4
4	宮川早穂	1:00:11	立教大学 4
5	松田沙也加	1:00:18	岩手大学 4
6	山岸夏希	1:02:21	筑波大学 1

## 男子選手権結果

1	稲森剛	1:11:48	横浜国立大 1
2	宮西優太郎	1:12:04	東北大学 4
3	久保田皓貴	1:12:33	慶應義塾大学 2
4	田中基士	1:12:35	横浜市立大学 4
5	五百倉大輔	1:13:11	京都大学 4
6	滝川真弘	1:13:26	東北大学 3

## 金沢大学 12年越しの個人金

五味あずさ(金沢大学4)もまた前日のスプリント競技に続いてインカレロングを制した。金沢大学では悲願のインカレロング種目での金メダルである。

金沢大学はかつてのインカレロングで金メダルが幻に終わったことがある。それは2003年3月8日、当時金沢大学4年の笹谷淳一がインカレ男子選手権クラスでトップタイムを2分も上回りながら、最終コントロールでE-cardへのパンチミスにより失格となった。その後12年間の沈黙を破り、五味あずさが堂々のインカレロングの金メダルを手にした。

2位はまたしても前日のスプリント種目と同じ守屋舞香(椋山女学園大4)。守屋は大会の朝の練習で足を捻り、無理を押しての出場だった。レース中盤まではトップに立っていたが、レース最終盤に長い坂を駆けあがる途中で足がついてゆけず、結果的に五味が20秒上回るようになった。

女子は上位5名が全員4年生の意地をみせた。そんな中、山岸夏希(筑波大学1)が健闘した。来年は今の2年生、3年生のがんばりを期待したい。



ゲキサカを駆けあがる五味あずさ(金沢4)



稲森剛(横国大1)、コース終盤のがんばり

## 1年生が二冠達成

稲森剛(横浜国立大学1年)が昨日のスプリント種目に引き続きインカレロングで優勝し、1年生にして二冠を達成した。これには観客の誰もが度肝を抜かれた。

しかも稲森のレースは24個のコントロール間のラップタイムでは一度もトップラップなく優勝を手に入れている。それだけミスが少ない安定したレース運びで、最後の最後に秒差で栄冠を手に入れたのだ。

2位は前日のスプリント競技と同じ宮西優太郎(東北大学4)。後輩の稲森に僅かに先をいかれてまたしても悔しい結果となった。

## 多彩な課題を提供するコース

今回地図がリメイクされた八ヶ岳山麓のトレイン「富士見の森」。ここは直進や地形読みを主体としたオリエンテーリングらしい課題を試すことができる素晴らしいトレインである。

ここを舞台に選手たちに、さまざまな競技課題が提供された。里山トレインよりもナビゲーションや直進の正確性が強く問われた。それだけではない。コース終盤ではど根性と体力を試すレースも用意されていた。コースが示す激しい課題に対して、技術、メンタル、そして体力を総動員してフィニッシュへと突き進んだ者が栄冠を手にしたのだ。

この最高の舞台を用意するために、努力を続けてきた多くの運営者の皆さん、おつかれさまでした。

(木村佳司)